

英米文学専攻（博士後期課程）の3ポリシー

【教育の理念】

英米文学専攻博士後期課程は、英米文学、英語学、英語教育における高度で専門的な知識と教養をもち、英語コミュニケーション能力を駆使して、教育研究現場や専門的スキルが求められる企業において異文化理解を促進することで、国際社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

修士の学位や、それに相当する学位をすでに保有しており、本専攻博士後期課程に3年以上在学して、所定の単位（12単位以上、1年次、2年次、3年次における指導教員の講義4単位及び研究指導）を修得しなければならない。指導教員による研究指導を受け、英米文学、英語学、英語教育を究明した論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。専攻分野において総合的、専門的、学術的、国際的な研究を行い、高度な専門性が要求される職業に必要な学識、能力、技能を有し、今後も国内外の研究職・教育職において大いに活躍ができると認められると判断される学生に、博士の学位が授与される。

（DP1）高度な専門分野の知識や技能の活用力

英米文学、英語学、英語教育に関する高度な専門的学識と、幅広い知見を身につけている。また、高度な英語力をもとに、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野におけるフロンティアを切り拓き、国内はもとより国際的な場においても新たな知見や価値を創造、提案し、還元していくことができる。

（DP2）情報分析、課題設定および問題解決能力

自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、英米文学、英語学、英語教育に関する専門的な学識や高度な英語力を駆使して継続的に研究を遂行できる。さらに、最先端のツールや手法によって、専門に関わる知識や情報を収集するだけでなく、それらを適切に分析することによって、今までにない知見を導き出すことができる高度な研究力を有する。

（DP3）コミュニケーション能力

学術論文の執筆や国内外の学会での発表などを通じて、自らの独創的な研究成果や新たな知見を国際社会に発信できるのと同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつも、自らの専門的な学識に基づいて建設的な批判を行い、論理的に学術的な議論が展開するなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切なツールを用いて自らの研究業績をグローバルに発信し、自ら導き出した新しい知見を実社会に還元することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

指導教員の個人指導が中心となり、博士の学位取得を目的として、専門性の高い演習方式の教育を行う。修士課程や実社会で養った専門知識と研究能力をさらに洗練させ、各自の研究テーマを自由に独創的に深化できるカリキュラムが編成されている。院生は指導教員との活発な議論を通して、その研究分野、世界、実社会に大きく貢献できる人材へと成長する。またその研究成果は博士論文として発表できるが、そのための個別指導・支援体制・学位審査制度が整備されている事は言うまでもない。院生は指導教員の講義と研究指導を毎年履修し、指導教員による段階的・系統的な指導を受けられる。この所定の科目は12単位であるが、分析力や批評

眼を養うため、指導教員以外の科目を選択科目として履修する事もできる。修士課程在籍者と共同開催する年数回の「院生研究発表会」での口頭発表や、紀要論文集『試論』への投稿を通じて、博士論文執筆作業の補完がなされる。院生は合計3本の論文を『試論』に発表できる。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上目的として、先行研究の批判的検討、文献講読、データ収集指導、論文作成等に関して指導を行う。
- 2) 研究指導科目は、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力を体得し、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や実現性について客観的に評価・助言し、後日論文や学会発表の指導を行い、博士論文作成に向けての研究業績を積み上げる。
- 3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」及び「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションをとりながら実施する。
- 4) 講義科目と研究指導科目は単独のものではなく、有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員が進捗状況だけでなく、英米文学専攻で定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあつては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身に付けていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了時までの成長を視野に入れ、英米文学専攻の教育課程レベル、科目レベルの2段階のレベルで学習成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1~3	◎	○		専門分野の高度な知識及び情報収集・分析などの研究活

						動上必要な研究手段・手法についてさらに深化させる。
研究指導	—	1~3	◎	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、学術論文の作成及び学会発表などを通じて、最終的に博士論文にまとめる。
博士論文	—	—	◎	◎	◎	研究論文の集大成として、自ら設定した研究テーマに関して、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	◎	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身に付け、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

英米文学専攻博士後期課程は、英米文学、英語学、英語教育における高度で専門的な知識と教養をもち、異文化理解の促進に努め、国際社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。この人材養成の目的に基づいて、自立した教育研究者として独創的な研究を成し遂げられる能力、特性、意欲をもつ人材を求めている。本学からの進学者はもちろんのこと、他大学の出身者にも広く門戸をひらいている。以上の方針にもとづき、通常2月に、入学試験を行っている。

1. 求める学生像

- (AP1) 英米文学、英語学、英語教育の分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 英米文学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 主体的に課題を設定し、様々な知識や情報に基づいて的確な判断と考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠を持って論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	◎		修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められるものに対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の3科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	実施していない					